

愛媛県新居浜市

金栄校区地区防災計画

自分たちの地域は自分たちで守る



平成28年2月

金栄校区地区防災計画の策定にあたって

地域の皆様には、日頃より地域防災活動に御協力いただき、誠にありがとうございます。

このたび、金栄校区自主防災会では、内閣府が策定を進めております地区防災計画の策定モデル地区に指定されました。これを受けて、金栄自主防災組織では、地区防災計画検討委員会を立ち上げ、金栄校区地区防災計画を策定しました。

金栄校区では、平成 16 年災害で校区一帯において、浸水被害や土砂災害など、多くの物的被害が発生しました。

それを教訓として、平成 17 年 6 月に金栄校区自主防災会を結成し、今日まで様々な防災活動を実施してまいりました。

活動内容としては、校区内の関係団体と連携して校区防災訓練、防災熟議、防災まちあるきなどを通じて、地域住民の防災力向上を図っております。金栄校区からは一人の被害者を出さないためにも、地域コミュニティの活性化を図り、日頃から隣近所の助け合いによって、「自分たちの地域は自分たちで守る」という心構えで、災害に強いまちづくりを進めております。

今回の策定は、地域住民とともにやってきた防災活動をより活性化させ、地域に密着した防災活動を充実させる良い機会であります。地区防災計画の内容につきましても、まだまだ不備な点も多いと思いますが、今後の防災活動を実施していく中で改善を図り、より良い地区防災計画に改訂してまいりたいと考えております。

この計画を基に、更なる地域に根差した防災活動の推進を努めてまいりますので、今後とも皆様方の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、地区防災計画の策定にあたり、山口大学村上准教授様、関西情報センターの防農様、策定委員はじめ地区関係者の皆様には、貴重な御意見と御指導をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

平成 28 年 2 月
金栄校区自主防災会
会長 坂本 安孝

《目次》

1	総則	
(1)	基本方針	1
(2)	活動目標	1
(3)	活動計画	1
2	金栄校区の概要	
(1)	地域の概要	2
(2)	構成（駅前・高木・滝の宮・西の土居・政枝・政枝西自治会）	3
(3)	社会特性	3
3	地域特性	
(1)	校区で起こりうる災害	3
(2)	新居浜市における地震発生時の被害想定	4
(3)	新居浜市における震度分布図（資料：愛媛県地震被害想定調査）	4
4	地域の課題	
(1)	災害特性	5
(2)	社会特性	5
5	地域課題の現状	6
6	地域課題の対策	7
7	課題及び対策の対応	8
8	防災活動内容	
(1)	防災活動編成	9
(2)	平常時の活動	9
(3)	発災時の活動	9
(4)	各種関係団体との連携	9
(5)	地区防災計画及び防災訓練実施要領・検証	10
9	防災意識の普及啓発	10
10	防災活動計画	11
11	地区防災計画策定委員会開催状況	14
12	地区防災計画策定委員会名簿	15
13	校区防災備蓄	16
14	資料編	
(1)	まちあるき取りまとめ結果	
(2)	金栄校区防災マップ	

1 総則

(1) 基本方針

災害が発生した直後は、交通網及びライフラインの寸断、火災の同時多発などにより、消防や警察などの防災機関が十分に対応できない可能性があります。そのようなときに力を発揮するのが「地域ぐるみの協力体制」です。

金栄校区では、平成16年に台風が5回接近するなどの豪雨災害によって、土砂災害及び浸水などの甚大な被害が発生し多くの被害をもたらしました。

また、今後、起こりうる可能性が高い、南海トラフ巨大地震が発生した際には、地域住民が助け合って、さまざまな困難を乗り越えなければなりません。

金栄校区では、「**自分たちの地域は自分たちで守る**」という心構えで、地域ぐるみで助け合い、一人の被害者を出さないためにも、日頃からの防災活動を通じて災害に強い安全で安心なまちづくりを進めます。

(2) 活動目標

平成17年6月に、公民館を中心として「誰もが安心して住めるまちづくり」を目指して金栄校区自主防災組織を結成しました。災害による被害を軽減するために、活動の基盤となる単位自治会の自主防災組織の充実強化、活動基盤体制の強化、防災活動を計画的に推進します。

また、地域住民の防災意識の向上をめざし、公民館を活動拠点として防災熟議、防災訓練に取り組み、各自主防災組織間の情報を共有し、防災資機材の充実に努めます。また、地域まちあるき、防災マップ作成などの取り組みも実施し、校区全体における防災力の向上及び充実に努めます。

ア 校区としての「目標」の明確化

- 金栄校区で想定される災害による被害、課題を共有する。

イ 災害時の活動方針

- 災害時の活動の流れ、活動方針の整理、活動内容を検討する。

ウ 日常の活動方針

- 金栄自主防災会の防災活動方針を検討し、決定方針のもと進める。

エ 今後の課題を整理

- 巨大地震発生時の切迫性により「災害が起こったらどうするか」等の視点で検討を行い、今後の金栄校区を見据えた中長期的視点で防災活動を進める。

(3) 活動計画

ア 防災士を中心とした校区及び単位自治会の防災組織の見直し及び強化

イ 地区防災計画の作成及び改訂（金栄校区自主防災組織）

ウ 地域総合防災訓練の計画及び実施（金栄校区自主防災組織・単位自治会）

エ 防災知識の普及啓発（公民館報・校区運動会等）

オ 防災資機材の整備（金栄校区自主防災組織・単位自治会）

カ 3世代交流地域まちあるきの実施（単位自治会）

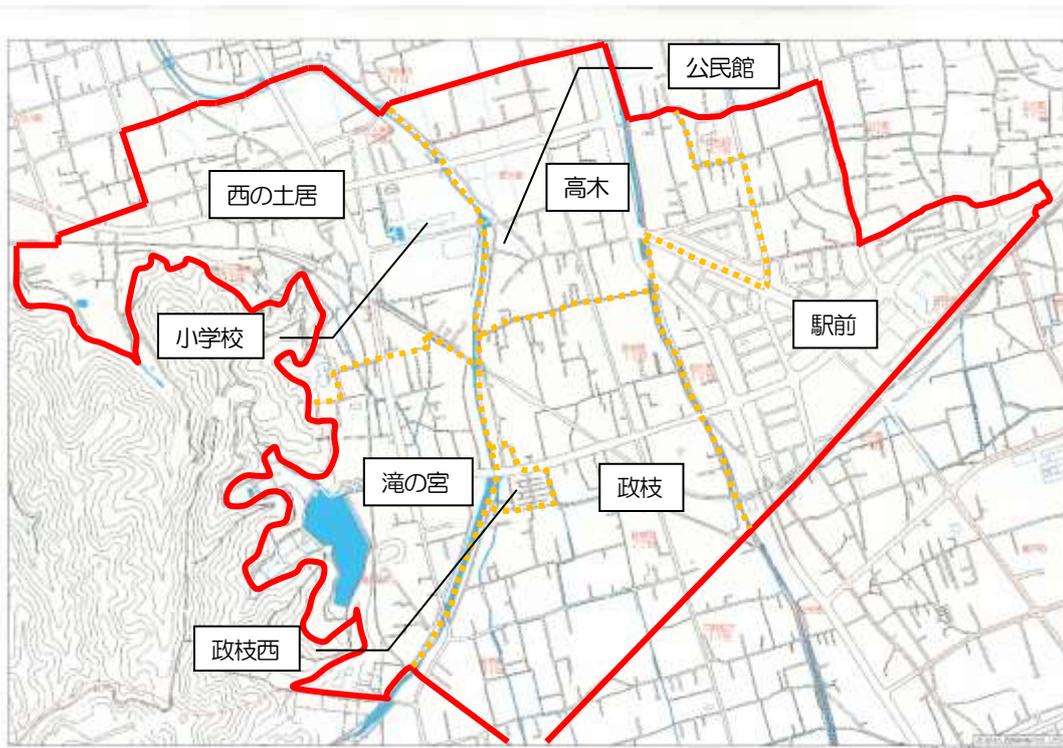
キ 防災マップの作成及び見直し（単位自治会・金栄小学校5年生）

ク 3世代交流防災イベントの計画及び実施（金栄ふれあいランド）

ケ 災害発生時における各自主防災組織の情報収集・伝達訓練の実施

2 金栄校区の概要

(1) 地域の概要



金栄校区は、新居浜市の中心部に位置し、校区にはJR新居浜駅が存在し、市民の交通機関の玄関となっています。また、市民の憩いの場となっている滝の宮公園や金子城跡など市の指定する指定史跡、由緒ある寺社等の文化財も数多く存在する金子山を背にした地域です。

校区の地形の特色としては、尻無川、東川の中規模河川が流れており、校区西側には金子山がそびえ、また、校区南側には、滝の宮大池が存在します。

(2) 構成

金栄校区は、駅前・高木・滝の宮・西の土居・政枝・政枝西自治会の6単位自治会にて構成されています。校区の中心部には、金栄小学校、金栄公民館も存在し、平常時には、地域コミュニティの場として、また、災害時には避難所として活用されています。また、総合福祉センターなど公共施設も存在し、災害時には福祉避難所及びボランティアセンターとして活用されています。

(3) 社会特性（平成27年3月31日現在）

ア 面積：2,592km²

イ 世帯数：2,636戸

密度：845.6戸

ウ 人口：5,687人（男：2,759人・女：2,928人）

密度：2,029.7人

エ 5歳未満人口：312人

密度：120.5人

人口比：5.9%（新居浜市人口比：4.2%）

オ 65歳以上人口：1,403人

密度：541.3人

人口比：26.7%（新居浜市人口比：29.0%）

3 地域特性

(1) 校区でおこりうる災害

新居浜市では、大きな被害をおよぼす地震として、南海トラフ巨大地震、伊予灘地震、中央構造線活断層による地震、また、土砂災害警戒区域などで発生する可能性がある土砂災害などを想定しています。金栄校区においては、これらの地震、豪雨災害、土砂災害から被害を受ける可能性が高くなります。

ア 地震（資料：防災科学技術研究所）

➤ 地震の起こりやすさ 高い：59.8%

➤ 液状化現象の起こりやすさ 可能性中

◆ ため池浸水想定区域：滝の宮、西の土居地区の一部

イ 津波（資料：防災科学技術研究所）

➤ 海岸線からの距離 750m

ウ 水害（資料：防災科学技術研究所）

➤ 洪水の起こりやすさ 危険大

◆ 平成16年災害浸水域：駅前、高木、滝の宮、西の土居、政枝、政枝西地区の一部

◆ 水防区域：東川右岸（政枝地区）・尻無川左岸（駅前、政枝地区）

エ 土砂災害（資料：防災科学技術研究所）

➤ 土砂災害危険箇所 あり

◆ 土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）：滝の宮、西の土居地区の一部

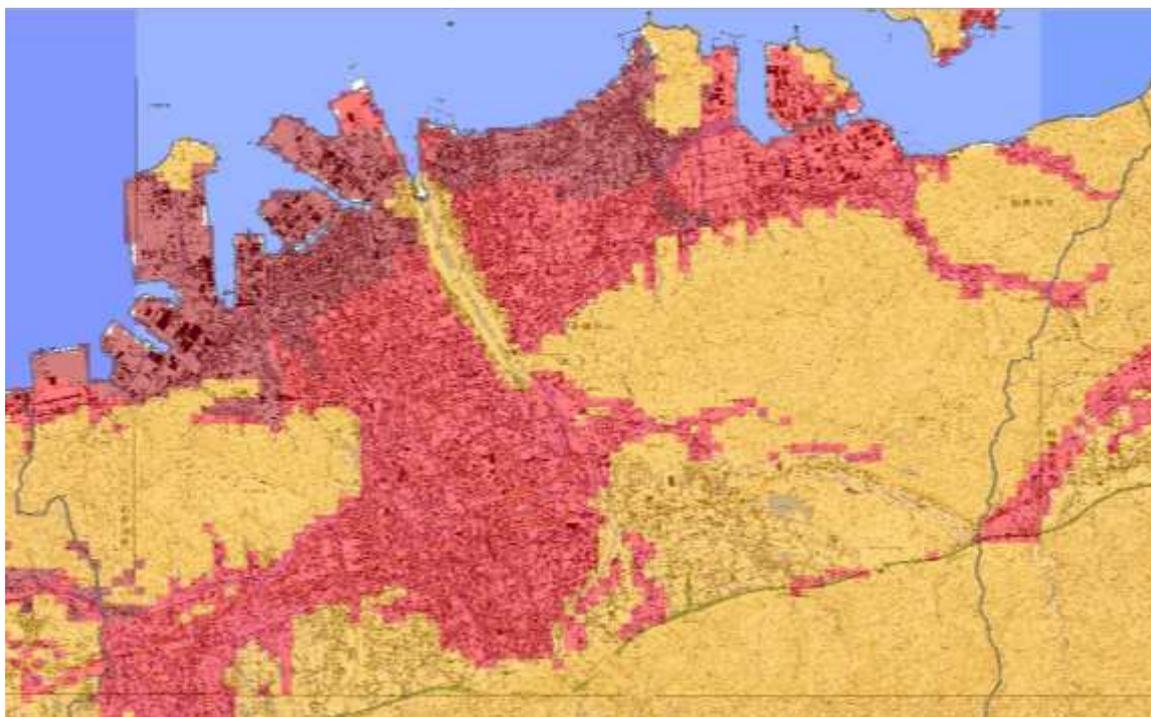
◆ 地すべり危険箇所：滝の宮、西の土居地区の一部

◆ 土砂災害警戒区域（土石流）：西の土居地区の一部

(2) 新居浜市における地震発生時の被害想定 (資料：愛媛県地震被害想定調査)

被害項目	南海トラフ巨大地震	中央構造線断層帯
揺れによる全壊	14,795	21,245
揺れによる半壊	10,367	9,420
液状化による全壊	1,130	1,105
液状化による半壊	1,216	1,114
土砂災害による全壊	14	12
土砂災害による半壊	32	28
火災による焼失棟数	18,524	17,818
建物倒壊による死者数	850	1,215
建物倒壊による負傷者数	4,769 (重傷者 1,600)	6,095 (重傷者 1,223)
火災による死者数	536	748
火災による負傷者数	258 (重傷者 72)	275
津波による死者数	455	0
土砂災害による死者数	1	1

(3) 新居浜市における震度分布図 (資料：愛媛県地震被害想定調査)



4 地域の課題

(1) 災害特性

区分	課題
共通	<ul style="list-style-type: none"> 金子山の土砂災害、滝の宮大池の決壊の恐れがある。 災害発生直後の災害時要援護者に対する支援 帰宅困難者の避難所受入や非常食の配布等の対応が可能であるか 避難所まで無事に避難できるか（災害時要援護者、高齢者など） スムーズに避難所が開設、運営できるのかが不安（物資供給、炊出） 避難所開設時における諸課題（食料、飲料水の数量）
地震	<ul style="list-style-type: none"> 避難所の受入れに対する懸念 耐震補強未実施の建物の倒壊の恐れ 古い建物の倒壊、火災、液状化の恐れ 子供の安全確保及び安否確認ができていない。 住宅密集地における通行障害の可能性がある。 ライフラインが停止する。 住宅密集地における大規模火災の可能性がある。 トイレ使用不可の際の排泄問題 家具の固定の未実施 家族、知人、隣人の安否確認（連絡体制） 避難所及び自宅の飲食料品の数量が不十分 避難所の耐震化（避難所が使用できない可能性がある） 災害発生後の自主防災組織の体制確保の確立（統制、連絡手段の構築）
水害 土砂	<ul style="list-style-type: none"> 西の土居及び滝の宮地区における土砂災害の発生の恐れ 避難経路の安全性（道路の冠水、寸断） 災害種別（地震・浸水）ごとの避難場所の周知 東川及び尻無川による外水氾濫（流木による河川閉塞） 水路などの内水処理能力不足による内水氾濫 他校区の被害による2次災害の発生（上部地区のため池決壊など） 避難所における備蓄数量が未周知 市役所からの情報伝達体制の構築が未実施 非自治会員に対する対応 平成16年災害において金栄校区の避難所が冠水し使用不能 福祉施設（やすらぎの郷）の土砂災害による危険性

(2) 社会特性

区分	課題
要支援	<ul style="list-style-type: none"> 福祉避難所の運営できるのかが不安（ふれあいプラザ、慈光園） 災害時要支援者及び障がい者の把握ができていない。 障がい者の一般避難所から福祉避難所への移動手段が未決定である。 災害時要援護者リストの活用ができるのかが不透明 金栄校区における高齢者率が高いため、災害時の支援者の確保

5 地域課題の現状

課題	現状
地震時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 滝の宮大池が決壊した際の避難場所（金子山に避難する） ・ 災害時の避難行動（時間帯による避難所に行く判断） ・ 避難所における備蓄数の確認、調査（情報の共有） ・ 自治会の備蓄品の保管場所（見直しが必要） ・ 自治会館が倒壊の可能性有り（避難所として不的確） ・ 各家庭の災害対策（耐震補強、家具固定など市の補助などを周知する） ・ 安否確認の手段が浸透していない。（印刷物を配布し各家庭で掲示） ・ 自治会回覧版を有効に活用（各家庭で対策を周知） ・ 避難場所の把握
水害 土砂災害時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川内の雑草の定期的な除草が必要である。 ・ 危険箇所の定期的な点検ができていない。 ・ 災害情報、避難情報など各種情報を収集しなければならない。 ・ 避難準備情報発令前に自治会館の事前開放
避難所 開設・運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所運営時の責任者が的確及び明確な指示 ・ 指定避難所が周知できていない。（住民が知らない。無関心）
自助 共助力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組、区単位での避難、助け合いは可能か（日常の防災意識） ・ 自主防災組織の各役割（組織図）の見直し済み ・ 自治会ごとの被害状況の把握、支援方法が決まっていない。 ・ 日頃からの近所付き合い。（共助）
要支援者の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の共有（要支援者） ・ 避難所の受入態勢（福祉避難所へ移動も考慮） ・ 災害時要援護者（在宅療養者等）の把握及びリストの有効活用（事前の調査やマップの作成、必要性） ・ 災害時要援護者と支援者がお互い認識できているか。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自治会の自立（情報収集、備蓄品、非自治会員への対応） ・ 空家対策（平時からのパトロール） ・ 16年災害を知らない住民へ周知が必要（不安をあおる可能性がある） ・ 防災に関する意識が低い。（関心を持ってもらうために啓発が必要） ・ 災害時に自治会保有の軽トラックの有効活用（具体案、定員の問題）

6 地域課題の対策

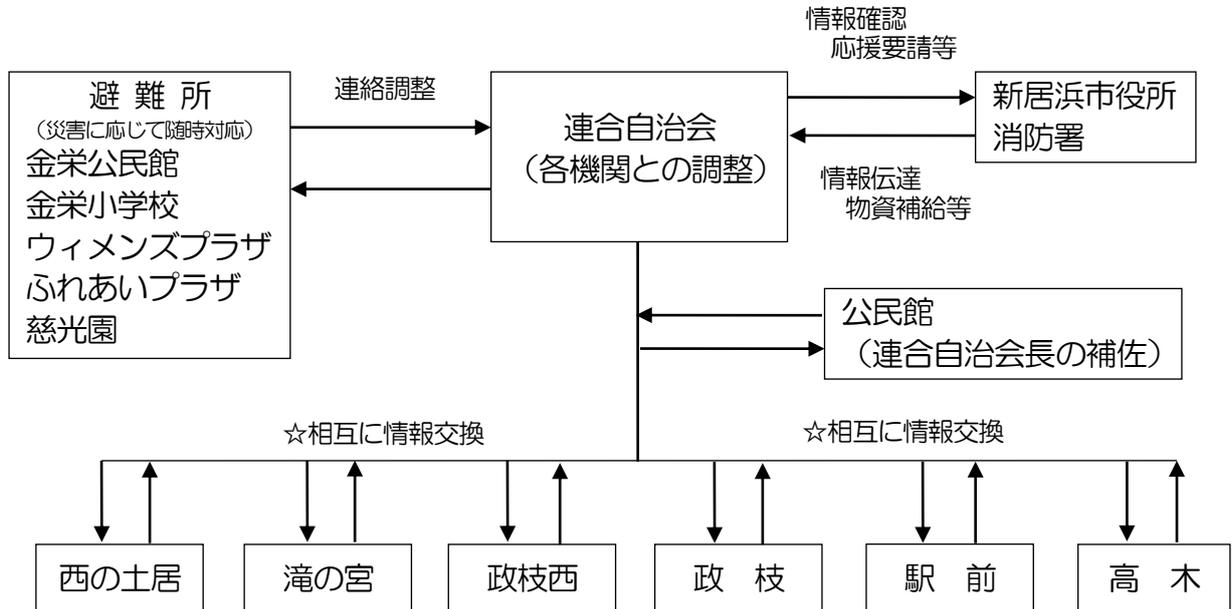
課題	対策
地震時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所までの安全なルート確認（マップの作成、まちあるきの実施） ・空家対策及びブロック塀の点検（まちあるきで把握） ・平日、休日、夜間発生時の対応、対策 ・家族間で防災に対する話し合い（避難方法の確認、避難所の共通認識） ・レスキューセット配備（使用できる人の養成） ・建物内の安全点検、備蓄品の確保、防災用品の準備及び啓発 ・具体的な災害対応のシュミレーション（自助、共助で検討） ・自分の身を守る。（適切な場所で身を守れるか。マニュアルの必要性） ・自治会回覧版を有効に活用（各家庭で対策を周知） ・災害時の避難行動、避難場所の把握
水害 土砂災害時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所の点検及び避難経路の確認 ・正しい情報の入手、警報発令、避難勧告発令時の対応 ・垂直避難の周知（2階以上の山裾と反対側の部屋に避難）
避難所 開設・運営	<ul style="list-style-type: none"> ・運営に女性の参画が必要 ・開設、運営訓練の実施 ・各関係機関との連絡体制、避難所の受入れ体制 ・備蓄品の確保（把握、周知、不足の対応） ・プライバシー対策（病気、授乳） ・ペット対策（臭い、鳴き声、アレルギー） ・役割分担が未決定 ・リーダー等が被災した際の代行者 ・リーダーの養成 ・自治会館の有効活用（備蓄品の不足、補充の必要）
自助 共助力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・組、区単位の役割分担や避難時の助け合い ・高齢者の支援（リスト、理解、コミュニケーションの必要性） ・災害時の具体的な行動（行動マニュアルの作成、訓練の実施） ・地域コミュニティの構築（近隣住民との助け合い） ・安否の確認や避難の際の手助け
要支援者の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時要援護者リスト作成に対する協力体制 ・災害時要援護者の避難誘導（支援者は誰なのか） ・外国人に対する情報提供 ・ケア用品などの備蓄 ・バイタルチェックの確認 ・服薬、既往症、現病歴の把握（お薬手帳の活用） ・独居老人への対応 ・車イスの必要性（実際に使用できるかが不安）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・空家対策（平時からのパトロール） ・各自治会の自立（情報収集、備蓄品） ・出前講座の活用

7 課題及び対策の対応

		課題	対策案	個人	自治会	校区	
地震 水害	1	金子山の土砂災害による人的被害が発生する。	土砂災害を想定したシュミレーション訓練の実施		◎	○	
	2	滝の宮大池の決壊による人的被害が発生する。	決壊を想定したシュミレーション訓練の実施		◎	○	
	3	災害発生直後の災害時要援護者に対する支援ができない。	要支援者リストを準備しておく。	○	◎	○	
			要支援者マップの作成	○	◎	○	
	4	避難所が開設、運営ができるのかが不安である。	避難所運営マニュアルを作成する。			○	
			役割分担を事前に決めておく。			○	
開設・運営訓練を定期的実施する。					○		
地震	1	ライフラインが寸断して使用できない。	代替え手段を準備しておく。 水道：保存水の備蓄 電気：発電機の整備 ガス：カセットコンロ及びボンベ	◎	○	○	
	2	トイレが使用できない。	仮設トイレや便袋を準備しておく。	○	○	○	
	3	地震で家具が転倒し怪我をする。	家具の転倒防止対策を実施する。	○			
	4	地震でガラスが割れて怪我をする。	ガラスの飛散防止対策を実施する。	○			
	5	住宅密集地で火災が発生する。	消火訓練を継続して行う。		○		
	6	子どもの安否確認ができない。	家庭内で連絡方法の周知や避難場所をあらかじめ決めておく。	○			
	7	避難所及び自宅の非常食は不足している。	避難所ごとの避難者数を想定して、備蓄品を整備していく。			○	○
			在宅避難を想定して家庭用備蓄を整備しておく。	○			
8	空家が倒壊して避難に支障が出る。	複数の避難ルートを想定しておく。	○				
水害	1	水路などが内水氾濫する可能性がある。	水路など定期的清掃を実施する。		○		
	2	東川及び尻無川による外水氾濫の可能性がある。	河川内の定期的な点検を実施する。		○		
	3	避難経路が冠水して避難に支障が出る。	複数の避難ルートを想定しておく。	○			
	4	避難所が冠水して使用できない可能性がある。	金栄公民館及び金栄小学校は浸水する可能性があるため、ふれあいプラザ及びウイメンズプラザに避難する。	○	○	○	
災害ごとに避難所が使用できないことを周知しておく。			○	○	○		
要支援	1	災害時要支援者リストが活用できない可能性が高い。	あらかじめ、リストの活用方法を検討しておく。	○	○		
	2	福祉避難所が運営できるのかが不安である。	福祉避難所運営マニュアルを作成する。			○	

8 防災活動内容

(1) 防災活動編成（金栄校区自主防災会組織図・役割分担）



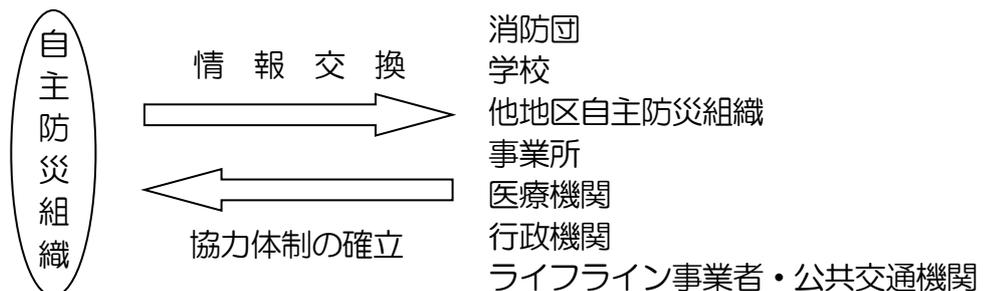
(2) 平常時の活動

- ・ 地域内の安全点検
- ・ 防災知識の普及・啓発
- ・ 防災訓練
- ・ 防災資機材の整備
- ・ 災害時要援護者対策

(3) 災害時の活動

- ・ 初期消火
- ・ 救出・救助
- ・ 情報の収集・伝達
- ・ 避難誘導
- ・ 避難所の管理・運営

(4) 各種関係団体との連携（協働による自主防災組織の活性化）



(5) 地区防災計画及び防災訓練実施要領・検証

- 目的 ・ 基本指針
- 目標決定 ・ 防災訓練実施計画立案
- 実施
- 点検 ・ 評価
- 是正 ・ 改善
- 次回訓練 ・ 地区防災計画見直し

☆ PDCA

- Plan（計画）：実績や予測などをもとにして計画を作成
- Do（実施）：計画に沿って業務を行う
- Check（点検）：実施結果が計画に基づいているか確認
- Act（改善）：改善が必要な部分を処置

9 防災意識の普及啓発

(1) 災害による被害を最小限にとどめ、被害の拡大を防止し、住民の生命、身体、財産を守るためには、住民一人ひとりが災害について正しい認識をもち、日頃から災害時に沉着冷静に行動できる力を身につけることが最も必要であるため、防災熟議、防災訓練などを通じて、自助、共助力の向上に努めます。

(2) 金栄校区自主防災組織では、防災意識の普及、啓発活動を行い、住民の防災意識の高揚を図るため、あらゆる広報媒体を利用し、防災広報の充実に努めます。

- 地震、火災、水害等についての知識の向上
- 地震発災後72時間における活動の重要性
- 家庭における食糧等（最低3日分）の備蓄確保
- 家庭における住宅の耐震化、家具の転倒防止の重要性
- 各家庭における防災上の留意事項に関すること
- その他防災に関すること

10 防災活動計画

実施計画		年度計画					目標
		R3	R4	R5	R6	R7	
1	防災まちあるきの実施 (6自治会・小学校)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	3世代まちあるきを単位自治会ごとに実施し、地域内の危険箇所等を調査する。
2	自治会単位の防災マップ作成 (6自治会)	検討 実施	⇒	⇒	⇒	⇒	調査結果をもとに単位自治会ごとの防災マップを作成し、地区防災計画に反映させる。
3	空家調査の実施 (政枝西自治会)	検討	実施	⇒	⇒	⇒	校区内の空家の調査し、危険度別に取りまとめ、防災マップ等に反映させる。
4	河川内の安全点検の実施 (駅前・滝の宮自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	尻無川、東川の河川内の安全点検実施する。必要に応じて、市に要望する。

(2) 防災知識の普及・啓発

実施計画		年度計画					目標
		R3	R4	R5	R6	R7	
1	防災情報の回覧の実施 (6自治会)	検討	実施	⇒	⇒	⇒	毎月の自治会回覧版を活用し、防災情報紙を通じて、防災意識の向上を図る。
2	防災出前講座の実施 (校区)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	出前講座を通じて個人の防災力向上を図る。
3	防災講習会への参加 (6自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	市や消防機関等の講習会や研修へ積極的に参加し、防災知識の向上を図る。
4	防災士の養成 (校区)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	毎年、校区で防災士を2～3人以上養成する。
5	活動マニュアルの作成 (駅前・滝の宮自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	自主防災組織の具体的な活動マニュアルの作成
6	防災情報の回覧の実施 (駅前自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	全自治会員を対象に防災に関する知識の普及のために「防災知識」を各組単位の回覧での学習を月1回ペースで続ける。(平成28年1月～実施)
7	自主防災会議の実施 (駅前自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	月1回の自主防災会議の開催し、マニュアルの作成、訓練等の打ち合わせを実施 (毎月第1日曜日の9時～)
8	防災出前講座の実施 (滝の宮・政枝自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	出前講座を通じて個人の防災力向上を図る。
9	自主防災会の開催 (滝の宮自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	役員会時に自主防災会議を実施する。
10	防災センター・先進地区視察研修 (6自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	各防災センターや、先進地区を視察する事で、知識を習得し、持ち帰って活用する。 (防災士のスキルアップ)
11	掲示板に標高表示板の掲示 (6自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	自治会館などの掲示板に地区内の標高を記載したマップを掲載し、災害に備える。

(3) 防災訓練

	実施計画	年度計画					目標
		R3	R4	R4	R5	R6	
1	校区防災訓練の実施 (校区)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	10月第4日曜日に校区防災訓練を実施し、様々な訓練メニューを体験することにより、防災力及び防災知識の向上を図る。
2	単位自治会防災訓練の実施 (駅前・高木・滝の宮・西の土居自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	単位自治会ごとに実施可能な訓練メニューを検討し、より多くの住民が参加できる地域密着型の訓練を実施する。
3	マイタイムラインの作成 (6自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	単位自治会ごとに浸水時における住民一人ひとりがとる防災行動を時系列に整理した防災計画を作成する。作成後は、内容の見直し等を実施する。

(4) 防災資機材の整備

	実施計画	年度計画					目標
		R3	R4	R5	R6	R7	
1	防災資機材の購入整備を実施 (校区・公民館)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	防災資機材を計画的に購入整備をすすめ、防災資機材の充実を図る。
2	防災資機材の点検整備 (校区)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	配備している防災資機材の点検整備を定期的実施する。
3	防災資機材リスト整備 (校区・公民館・6自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	整備済みの防災資機材のリストを作成し、校区内で情報共有を実施する。
4	防災資機材・非常食・救急用品等の購入整備を実施 (駅前・高木・滝の宮・西の土居自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	防災資機材を優先順位を決めて計画的に購入し整備を進め、防災資機材の充実を図る。
5	防災資機材の点検整備 (駅前・高木・西の土居・政枝自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	配備している防災資機材の点検整備を定期的実施する。
6	非常食の購入整備 (駅前・高木・政枝西自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	自治会保存用の非常食の購入整備及び各家庭用の非常食の共同購入を行い、非常食の充実を図る。

(5) 災害時要支援者対策

	実施計画	年度計画					目標
		R3	R4	R5	R6	R7	
1	災害時避難行動要支援者の新規対象者の調査の実施 (6自治会)	検討	⇒	実施	⇒	⇒	自治会長、民生委員などを通じて、災害時避難行動要支援者対象者の新規登録事務を進め、校区内の災害時要援護者登録率100%を目指す。
2	災害時避難行動要支援者のリストの活用方法の検討 (6自治会)	検討	⇒	実施	⇒	⇒	現在作成している災害時避難行動要支援者リストの活用方法を協議して、災害発生時に円滑に活用する方法を検討する。
3	災害時避難行動要支援者マップの作成 (駅前・高木・西の土居・政枝自治会)	検討	実施	⇒	⇒	⇒	災害時避難行動要支援者(希望者)のマップを作成して、災害発生時に支援にあたる際の資料として活用する。
4	災害時避難行動要支援者救助方法の検討 (駅前・西の土居自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	軽トラックなどを有効に活用した救助方法の検討と、救助スタッフの訓練を実施する。

(6) 避難所の管理・運営

実施計画		年度計画					目標
		R3	R4	R5	R6	R7	
1	避難所運営訓練の実施 (校区)	検討	実施	⇒	⇒	⇒	避難所運営ゲーム(HUG)を用いた「避難所運営訓練」を通じて、避難所運営上の諸問題や課題など、避難所運営の重要性について再確認する。
2	避難所運営マニュアルの作成 (公民館)	検討	実施	⇒	⇒	⇒	金栄校区において、円滑に避難所開設運営を行うため避難所運営マニュアルを作成する。
3	避難所設営・運営訓練の実施 (駅前・西の土居自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	自治会防災訓練時に、避難所を設営、運営し、毎年見直しを行い、よりよい避難所運営ができるように考えて、実行していく。

校区：校区で一斉に実施する活動

6自治会：単位自治会が個別に実施する活動

〇〇自治会：各単位自治会が独自に実施する活動

公民館：公民館が中心となって実施する活動

小学校：金栄小学校の防災学習

11 地区防災計画策定委員会開催状況

	日 時	場 所	実施内容
キックオフ会議	7月19日(日) 9:30	公民館	金栄校区の取り組み状況
打 合 せ 会	8月20日(木) 19:00	公民館	地区防災計画策定方針について
第 1 回	9月 7日(月) 19:00	公民館	地域の災害と被害について
第 2 回	10月 2日(金) 19:00	公民館	災害時の課題の確認
防 災 訓 練	10月25日(日) 8:00	小学校	金栄校区防災訓練
第 3 回	11月 3日(火) 9:30	公民館	災害時の対策(まちあるき)
第 4 回	11月26日(木) 19:00	公民館	まち歩きの結果整理
第 5 回	12月 3日(木) 19:00	公民館	地区防災計画の作成(修正)
第 6 回	12月16日(水) 19:00	公民館	地区防災計画の作成(修正)
小 委 員 会	1月20日(水) 19:00	公民館	地区防災計画の作成(確認)
第 7 回	2月16日(火) 19:00	公民館	地区防災計画の作成(確認)
第 8 回	2月29日(月) 19:00	公民館	地区防災計画の取り組み発表

12 地区防災計画策定委員会名簿

	役 職	氏 名	職 名
1	委員長	坂本 安孝	金栄校区連合自治会 会長
2	委 員	定岡 勝一	金栄校区政枝自治会 会長
3	委 員	塩見 進	金栄公民館 館長
4	委 員	白石 晃典	金栄校区西の土居自治会 防災士
5	委 員	一色 沙緒里	金栄校区西の土居自治会 防災士
6	委 員	津乗 雅章	金栄校区駅前自治会 防災士
7	委 員	矢野 明	金栄校区駅前自治会 防災士
8	委 員	鈴木 裕	金栄校区高木自治会 防災士
9	委 員	石村 耕一	金栄校区高木自治会 防災士
10	委 員	白石 晃一	金栄校区高木自治会 防災士
11	委 員	檜垣 慶	金栄校区滝の宮自治会 防災士
12	委 員	飯塚 和也	金栄校区政枝自治会 防災士
13	委 員	定岡 嘉恵	金栄校区連合婦人会 会長
14	委 員	金崎 由香	新居浜市社会福祉協議会金栄支部 事務局
15	委 員	野間 優子	民生児童委員協議会 会長
16	委 員	塩崎 静子	見守り推進員 代表
17	委 員	松原 亜希	新居浜市金子中婦人防火クラブ 区長
18	委 員	高津 いづみ	金栄公民館 主事
19	委 員	澤井 哲男	新居浜市立金栄小学校 教頭
20	委 員	柿木 仁	新居浜市社会福祉協議会地域福祉課 課長
21	委 員	白川 達也	新居浜市社会福祉協議会地域福祉課 係長
22	委 員 事務局	高橋 直樹	新居浜市防災安全課 防災情報係長
23	アドバイザー	長沼 裕史	内閣府政策統括官(防災担当)付 参事官(普及啓発・連携担当)付 参事官補佐
24	アドバイザー	村上 ひとみ	山口大学 大学院担当准教授(工学博士)
25	アドバイザー	西田 佳弘	一般財団法人関西情報センター 新事業開発グループ 調査研究担当部長 主席研究員
26	アドバイザー	坊農 豊彦	一般財団法人 関西情報センター 新事業開発グループ

13 校区防災備蓄

防災倉庫在庫表				平成28年2月	
～防災倉庫①～					
災害救助工具セット	1	アルミ防災頭巾	5	給水袋(飲料水用)	40
灯油バーナーセット	1	組立テーブル	1	樋廻	1
ヘルメット	40	懐中電灯	4	大釜	1
投光器	2	リヤカー	2	単一電池(新品)	38
防災バケツ	8	誘導灯	86	灯油ポリ缶	2
携帯型担架キャリアフ	9	反射板たすき	28	カセットコンロ	7
～防災倉庫②～					
軍手	220組	毛布(2F)	5(60)	バケツ	15
一輪車	6	シヨベル	8	土嚢袋	400
ブルーシート	15	防災つなぎ(作業着)	4	担架	3
PPロープ(200m巻)	1	トラロープ(200m巻)		長靴	10
レインコート	12				
～防災倉庫③～					
発電機	4	扇風機	3	高圧洗浄機	3
投光器	2	救急箱	1	簡易トイレ	3
ガソリン携行缶 20L	3	水中ポンプ	2	組立トイレ	12
ガソリン携行缶 10L	1	コードリール	3	非常用トイレセルレット100回分	1
非常持出袋	2	エンジンチェーンソー			
～防災倉庫⑤～					
豚汁 (2016.6)		7缶(140食)			
(2017.8)		7缶(140食)			
(2019.7)		24缶(480食)			
山菜おこわ (2017.10)		4ケース(200食)パック・箸付			
(2020.2)		6ケース(300食)パック・箸付			
(2020.4)		1ケース(50食)パック・箸付			
(2021.2)		5ケース(250食)パック・箸付			
(2021.5)		6ケース(300食)パック・箸付			
白飯 (2020.2)		2ケース(100食)パック・箸付			
(2020.5)		2ケース(100食)パック・箸付			
ドライカレー (2020.4)		2ケース(100食)パック・箸付			
(2021.4)		4ケース(200食)パック・箸付			
サバイバルパン (2018.6)		3缶セット×8箱×5ケース			
(2021.6)		3缶セット×8箱×4ケース			
乾パン (2019.12)		48缶(100g/缶)			
リッツ保存缶 (2021.3)		80缶(1缶/13枚×3パック)			
フリーストドライビスケット	(2121.3)	393食			
保存水 2L (2017.3)		41本			
1.5L (2018.6)		76本			
1.5L (2019.9)		104本			
500ml (2018.9)		8本			
(2020.12)		24本×26ケース(624本)			
(2021.12)		24本×5ケース(120本)			
非常用5年保存水 10L	(2121.2)	10箱			
カレー (2020.4)		160食			
使い捨て汁椀		520ヶ			
スプーン小		400本			
割箸		1050膳			